

10 (平成30年度参考調査) 小カブの冬季栽培における品種特性調査

試験の目的

これまで農業センターにおける冬季野菜栽培試験等で供試し、市内における無加温栽培適性があると確認されたカブ「ゆきわらし」は、低温肥大性に優れ、生育の揃いが比較的良い、小～中カブサイズの品種です。しかし、葉長がやや長く、出荷用防曇袋に収めることが難しい一面があり、また、葉長が長いほど低温による障害の発生率が高まることから、各社の品種を比較して、「ゆきわらし」と同等の低温肥大性等を有し、かつ葉長が短い品種を模索することを目的としました。

関係先

市内生産者・市内直売所

試験概要

- (1) 播種日 9月19日
- (2) 栽植密度 条間15cm, 株間15cm, 10a当たり44,444株
- (3) その他
 - ・無加温
 - ・内張カーテン, トンネル, 銀ネズマルチ使用。

供試品種

品種名	販売元	品種名	販売元
ゆきわらし(標準)	カネコ種苗	CR雪あかり	渡辺採種場
玉里	武蔵野種苗園	ゆりかもめ	武蔵野種苗園
CR白わらべ	タキイ種苗	味サラダかぶ	丸種

試験結果

(1) 概要

平成30年度は暖冬傾向でしたが、最高気温は平年よりも高く、最低気温は平年よりも低く推移しました。しかし、外気温が -20°C 以下になることは少なく、小カブが凍結枯死することはありませんでした。

11月下旬頃から低温により作物の凍結が見られましたが、その数日後には解冻し、葉の傷み等はありませんでした。ただし凍結と解冻を繰り返すことにより、徐々に外葉の萎れが発生しました。

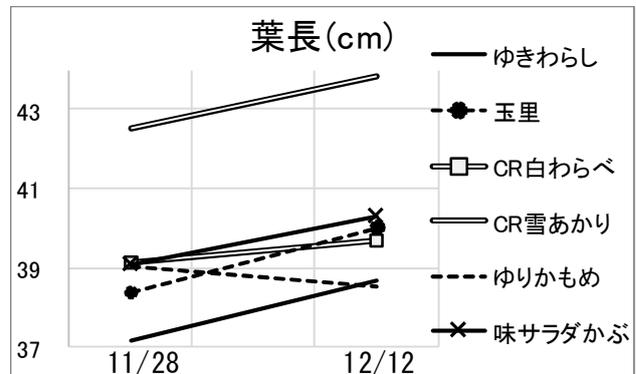
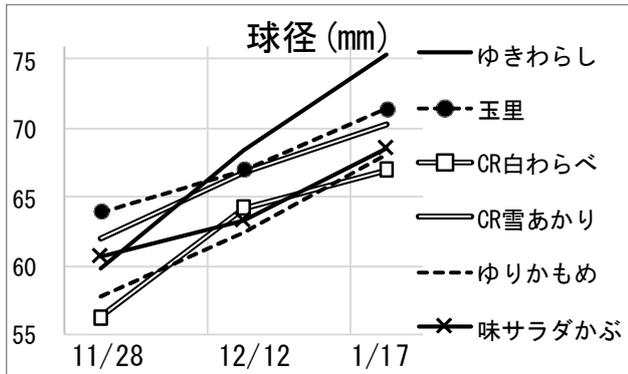
11月下旬にはすべての品種が収穫サイズである球径50mm以上になり、中でも「玉里」、「CR雪あかり」、「味サラダかぶ」は球径60mmを超えていました。12月中旬以降は「ゆきわらし」の球径が供試品種の中で最も大きくなり、その傾向が調査終了まで続いたことから、「ゆきわらし」が最も球の低温肥大性に優れていました。

葉長は11月下旬では「ゆきわらし」が37.2cmで最も短く、12月中旬では「ゆりかもめ」「ゆきわらし」が同等で最も短い傾向でした。

「玉里」と「味サラダかぶ」において、低温時の葉の萎れが他品種よりやや多くなり

ましたが、葉の表皮が剥がれる、葉柄内部がシャーベット状になる等の低温による障害発生に品種間差は見られませんでした。また、この障害は長さが概ね 30cm 以上の葉にのみ見られ、30cm より短い葉には、同一の株においても見られませんでした。

また、どの品種も、調査終了までスは見られませんでした。



(2) まとめ

本調査では冬季栽培において、「ゆきわらし」と同等の低温肥大性・耐寒性を有し、かつ葉長が短い品種は得られませんでした。よって、9月中旬に播種する作型においては、供試品種の中では「ゆきわらし」がもっとも適している結果となりました。

なお、「ゆきわらし」は、他品種よりも外皮が薄く、肉質も緻密で軟らかい特性であったことを付記します。



図1 ゆきわらし



図2 玉里



図3 CR白わらべ



図4 CR雪あかり



図5 ゆりかもめ



図6 味サラダかぶ

全て平成30年12月12日撮影